

混合歯列期反対咬合を機能的顎矯正装置プレオルソタイプⅢで改善した症例

○吉村 薫 福岡県 よしむら小児歯科医院

【目的】大塚らは従来の機能的顎矯正装置に改良を加え、熱可塑性を有しシリコン由来の材料を用いて反対咬合の症例において、前歯部の被害改善を行うことができる機能的顎矯正装置「プレオルソタイプⅢ」(株フォレストワン)を開発し、その有効性を報告している¹⁾。今回、演者は同装置を用いて前歯部交換期に反対咬合を比較的短期間に改善したので報告する。

【症例】患児:8歳1か月 男児 主訴:受け口
家族歴:母親は右側臼歯部交叉咬合
経過:H.25.9.21 資料採得および分析。
H.25.10.5 プレオルソ TypeⅢ装着開始。日中1時間及び夜間就寝時に毎日装着し睡眠中は口唇が開かないようリップシール使用を指示。H.25.11.1  被蓋改善1 口蓋側歯肉部に軽度の疼痛を認めたため調整。その後約4週間毎に調整を行った。H.26.2.1 「あ・い・う・べ」体操指導H.26.3.31 前歯部被蓋はほぼ改善H.26.6.28 保定のため夜間睡眠中のみ装着を指導。
【考察および結論】

下顎前突を呈する小児では、舌の低位が指摘されている。本装置には舌が自動的に挙上されるようにタングアップ装置が付与されており、装着時に正しい舌位が誘導される。大塚らは反対咬合では上唇圧が強く、下唇圧が弱くなっており、プレオルソ装置はリップバンパーにより上唇圧を排除し上顎前歯を装置自体が舌側より荷重することにより積極的に被蓋改善を行うことができると述べている¹⁾。また、大塚らは7～10歳の反対咬合の患児に本装置を用い、平均3～4か月で被蓋が改善されたと報告している。演者の症例も約5か月で被蓋改善がみられ、他の機能的顎矯正装置と比較して短期間に改善が認められ、その有効性が確認できた。

【参考文献】1)大塚淳、田代芳之、部屋本圭一:反対咬合の治療に用いる新しい機能的顎矯正装置の考察:第72回日本矯正歯科学会大会抄録集。P233. 2013.

保育園及び幼稚園職員におけるフッ化物洗口に対する意識調査

(園田鷹尾歯科医院)

園田尚弘

【目的】う蝕予防のひとつとしてフッ化物の応用が用いられる。その中において集団利用としてはフッ化物洗口が挙げられ、この集団利用を行う際は実行する施設職員の協力が不可欠である。そこで、今回、保育園並びに幼稚園に勤める職員を対象とし、フッ化物に対しどのようなイメージと、知識を有するのかわかる事を目的に調査を行った。

【方法】2 保育園及び1 幼稚園に勤務する施設職員47名(男性4名、女性43名)を対象にアンケート用紙を配布、記入していただき、無記名による調査を行った。

【結果】

「フッ化物洗口をご存知ですか?」との質問に70.20%、「フッ化物洗口の手順を知っていますか?」との質問には44.70%の方に「知っている」との回答を得た。

フッ化物の勉強会などに参加された事があるとの回答を得た方は22.40%であった。

「フッ化物に対するイメージ」については、「虫歯予防」、「虫歯になりにくい」との回答が多く、次いで「歯を強くする」であった。

【考察】

保育園並びに幼稚園に勤務する施設職員の「フッ化物洗口」に対する認知度は高かったが、手順の認識度については半数以下に止まり、知識についてはあまり知られていないのが現状であることが分かった。今後は施設職員に対し、フッ化物並びにフッ化物洗口の啓蒙活動を進め、認識していただき、う蝕予防の選択肢としてご理解いただける様努める必要性を感じた。